

ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」を促す国語科授業

「本の魅力をわかりやすく伝えよう～ビブリオバトルに挑戦！～」

久保田聡子（川崎市立川崎高等学校附属中学校）

概要：本単元では、ICT（動画）がもつ「再現性」や「個別性」といった特徴をいかすことにより、魅力を伝えるために効果的な話し方や発表の方略を習得するとともに、学んだことをもとに、誰の発表がよいかを映像を根拠にして選ぶ、それをもとに意見を交流する、さらに一人一台持つタブレットPCに配信された動画を授業時間だけでなく、休み時間や自宅で自分のペースで納得のいくまで見て、考えをまとめるといったような活用のしかたをしている。このような活用のしかたは、新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を促す上で効果があるのではないかと考える。

キーワード：ビブリオバトル、動画、再現性、個別性、タブレットPC、主体的・対話的で深い学び

1 はじめに

現在勤務する川崎市立川崎高等学校附属中学校は川崎市の南部に位置する開校4年目の中学校である。開校にあたり、本校は三つの特色ある教育の柱をつくり、その一つを「ICTの活用」としている。そのため学習環境として各教室に電子黒板機能付きプロジェクターが設置されており、校舎内は無線LANが整えられている。これらの機器を有効に活用し、わかりやすい授業を進めるとともに、一人一台のPCを使う中で、情報を的確に処理できる力や課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を養うことをめざしている。

本単元は、国語科においてこのような環境をいかし、効果的なICT活用をおこなうことを試みたものである。本単元の目的は、以下の二つである。

一つは聞き手をひきつけるような話し方はどのような話し方であるのかを生徒自身が考え、実際に発表する力をつけさせることである。

二つには読書に親しむ姿勢を養うとともに、読書生活をより充実させるための選書の機会をつくることである。

本単元ではICTがもつ「再現性」や「個別性」といった特徴を生かすことによって、よりよい話し方や発表のしかたについて具体的なイメージをもつとともに、自分自身の話し方や発表のしかたを振り返り、改善していくことにつなげられるのではないかと考えた。また、それらの学びを「主体的・対話的で深い学び」としていくためにはどのような単元計画に基づくよいかを考え、計画を立てて実施した。ここでは実践から見えてきたことをまとめたい。

2 研究の方法

（1）研究の目的

本稿では学習指導要領の指導事項にある力（本単元では「話すこと・聞くこと」「読むこと」）を身に付けさせる上で、「主体的・対話的で深い学び」となるような単元を開発する。

また、そのような学びを支える効果的なICT活用とはどのような方法であるかを検討する。そして生徒の振り返りをもとに、その有用性を検証する。

(2) 実施対象および実施時期

実施対象：本校中学校1年生（120名）

実施時期：平成28年9月

3 実践の概要

「主体的・対話的で深い学び」がどの時間でなされるかを具体的に考えて組み込むとともに、学びを支える効果的なICT活用の場面については指導者と生徒両方について考え、実践した。

単元名

「本の魅力をわかりやすく伝えよう
～ビブリオバトルに挑戦！～」

育成を目指す能力（学習指導要領の指導事項）

現行 1年「A 話すこと・聞くこと」イ、ウ、エ
「C 読むこと」イ

新指 1年〔知識及び技能〕(1)ア

〔思考力、判断力、表現力〕

A(1)イ、ウ、エ

C(1)ア

単元の指導計画

時間	学習活動・評価（太字部分）
1	・単元の見通しをもつ。 ・発表モデルに見られる気づきを共有する。
2	・発表の構想を練り、構成メモを作る。 ・発表練習をする。
3	・6人グループでビブリオバトルを行い、グループチャンプを選出する。 「話すこと・聞くこと」 「読むこと」
4	・グループ代表によるクラスビブリオバトルを行い、クラスチャンプを選出する。
5	・各クラスチャンプの発表を観点に沿って視聴する。（一斉・個人） ・班でそれぞれの分析に基づいた意見交流を行う。
6	・どのような意見交流がなされたのかをクラス全体で共有する。 ・学年チャンプを選出するとともに、これまでの学習全体を振り返り単元のまとめを行う。 「関心・意欲・態度」

※単元に入る前に本単元の予告をし、夏休み中にお薦めする本を1冊選び、熟読してこることを課題とした。

本単元における「主体的・対話的で深い学び」

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1	・見通しをもつ。 ・特徴を探しながら動画を視聴する。	・動画を見ての気づきを発表し、共有する。	
2	・わかりやすく伝えるための構成メモを作る。 ・メモに基づいて発表練習をする。		
3	・工夫して発表する ・評価し、質問を考えながら発表を聞く。	・発表後にディスカッションを行い、発表者や他の聞き手の考えに触れる。	
4	・評価し、質問を考えながら発表を聞く。		
5	・クラスチャンプの発表を比較・分析しながら聞き、学年チャンプを選ぶ。 ・自分の考えをまとめて書く。	・分析結果をもとに、グループで意見交流をする。 ・他の班でどのような意見交流がなされたのかを聞き、魅力的な話し方、発表のしかたへの捉え方を広げる。	・他者の分析と自分の分析結果を根拠にして学年チャンプを選ぶ。 ・自分とクラスチャンプの発表を比較しながら視聴することで話し方、発表のしかたの方略を学ぶとともに、今後の課題をみつける。
6			

ICT活用の場面

(●は指導者, ○は生徒による活用)

第1, 2時

●昨年度の1年生代表および、高校生チャンプの動画視聴

第3時

○班の中でお互いの発表の様子をタブレットPCの動画機能を使って録画(後にデータの受け渡し)



【対面の生徒が発表の様子を録画(左から2番目の生徒)】

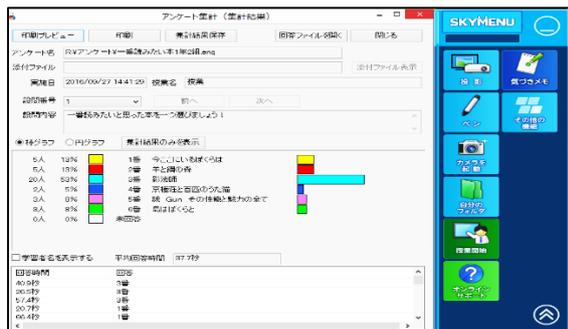
第4時

○グループ代表による発表の様子を録画



【グループチャンプの発表。聞き手が観点に沿って評価できるようにスクリーンには観点を拡大提示】

○●スカイメニューのアンケート機能を使って投票し、クラスチャンプを決定



【教室のスクリーンに拡大提示されたあるクラスの集計結果】

第5, 6時

●各クラスチャンプの動画を視聴(一斉)



【観点に沿って各クラスチャンプの動画を大画面で視聴】

○再度各クラスチャンプの動画を視聴し、分析(個人)



【配信された動画データをタブレットPCの再生機能を使って気になるところを繰り返し視聴するなどして各自で分析、評価】

○4人グループで分析結果を観点に沿って意見交流できるよう、観点をスクリーンに拡大提示



【スクリーンに提示してある観点を根拠にして意見を述べる様子(左から一番目の生徒)】

単元の指導計画に基づいた本單元における「主体的・対話的で深い学び」についてだが、「主体的な学び」については先の表にもある通り各時間に設けられる。「本の魅力をわかりやすく伝えるには、どのような伝え方をするとよいか」ということを見通しをもって学び、単元の終わりには自らの学習を振り返ることにより次へ学習へとつなげていくことができる。

個に閉じず学びの視野を広げていく上で必要となる「対話的な学び」についても、各時間において必要と考え、設けている。しかし、5、6時の最後にある振り返りでは、これまでの学びを各自でじっくりと振り返ることにより、身に付いた力の自覚につながると考えたため、あえて最後は対話的な活動は入れないとした。

「深い学び」については、この単元の学習活動でいうと「比較・検討・評価」がそれにあたると考える。これらの活動は第1時から入ってはいるが、中央教育審議会の答申に示されているような「深い学び」とするには個人による比較・検討・評価にとどまらず、5、6時におけるような他者と自分の考えを比較したり、「どのクラスチャンプの発表が一番よかったか」を検討したり、またそれを踏まえてさらに自分で考えたことを表現したりするなどの学習活動をもって「深い学び」とした。

ICTについては大きく分けて二つの場面で活用することが効果的であると考え。

一つはわかりやすい、魅力的な伝え方のモデルのイメージをつかませる時間での活用である（第1、2時）。この後の学習活動に必要な観点に含まれる要素を全体で確認することにより、定まった視点をもたせることになる。

二つには魅力的な話し方や発表のしかたについて自分の考えを明確にさせる時間での活用である。チャンプ同士、またチャンプと自分という視点で視聴することにより、魅力的な話し方、発表のしかたが一つではないということへの気づきや、課題の発見から自らの話し方、発表のしかたの改善へとつなげることもできる。その

中では、ICTがもつ「再現性」「個別性」といった特徴から、気になるところを止めたり、繰り返したりしながら自分のペースで見直すことができる。「主体的・対話的で深い学び」を実現させる上で効果的に活用のしかたであると考え。

4 結果

配信されたワークシート（Word）に単元のまとめを書かせ、提出フォルダに提出させた。そこからは映像の視聴が気づきや学びに効果を与えていることがわかった。

今回の学習を通して、相手を知り、自分を知ることができました。このような経験（映像の視聴）を通して、自分を一步成長させることができたので、今回学んだ話す上でのポイントを家や様々なところで活用したいと思います。

【単元のまとめ例（一部抜粋）】

5 考察

生徒の書いた単元のまとめを見ると、この単元で特に学んだことは「上手な魅力の伝え方」というものが多くあった。また「魅力を伝えることはビブリオバトルに限らず、プレゼンや日常会話等いろいろな場面でも使う。だから今回学べてよかった」というところからは、今回の学びの汎用性にも気づいていることがわかる。そしてそのような気づきは意見交流が少なからず影響していることも振り返りからうかがえる。

そのほかには自分とチャンプたちの動画を比較して視聴し、優れている点や改善すべき点を客観的に挙げているものが多くいた。ICTのもつ「再現性」や「個別性」といった特徴をうまく活用した結果と言えよう。

6 今後の課題

今回はビブリオバトルの形式における魅力的な話し方、発表のしかたを考え、その技能を身に付けさせるためICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を促す単元学習としたが、他の話し方、発表の形式でもこの単元構成が適切であるかどうかを検証したい。